

広報

2018

6

なか

NO.161

発行日 平成30年6月11日

発行 那珂市

編集 秘書広聴課広報グループ

〒311-0192

茨城県那珂市福田1819-5

E-mail hisho-k@city.naka.lg.jp

U R L <http://www.city.naka.lg.jp>

目次 Contents

水鳥②	…	2
八重桜まつり	…	6
那珂市の財政事情	…	8
那珂市特産品ブランド認証品募集!	…	10
まちの話題	…	26
Information	…	28
さわやかさん ほか	…	32

い
な
か
那珂
暮らし



水鳥

29

明治維新150年
と那珂市



明治維新は幕末のスローガンとなった「尊王攘夷」の達成といっても良いでしょう。幕府から大政が奉還され王政復古、立憲君主制となつて「尊王」が実現されたこと、開国し知識を世界に求める新政権となつて自立自存を目指した真の意味の「攘夷」が達成されたことなどです。日露戦争は、その攘夷の最大決意であつたととらえることができます。ここでは、明治維新の実現と、明治時代の国難日露戦争に関する那珂市の史跡などを紹介して、明治時代の一面を考えてみます。

■藤田幽谷・東湖顕彰「尊皇遺烈」の碑



▲藤田幽谷・東湖顕彰碑

号となつた豊田英雄など、多くの人々によつて飯田中島の宮ノ台共同墓地内に建立されました。

明治維新の起爆剤的役割を果たしたのが、飯田村(那珂市)を先祖の地とする水戸藩士の藤田幽谷・東湖父子です。藤田幽谷・東湖父子を顕彰する記念碑は、中国大陸との関係が緊迫してきた昭和12年(1937)4月29日に、在郷軍人会芳野村分会の有志や芳野尋常高等小学校の教職員、天狗諸生の騒乱の際に福井県敦賀で処刑された武田耕雲斎の子孫および日本の保母第1

その碑文では「水戸藩二代藩主義公光圀が天下に率先して尊王を唱え、その家訓を六代藩主文公治保、七代藩主武公治紀が受けつぎ、さらに九代藩主烈公斉昭がその思いを広め、やがて斉昭の七男慶喜公が將軍家を嗣いで大政を奉還して明治維新の魁となつたことは偶然の結果ではない。その文公を補佐したのは藤田幽谷であり、烈公が天下の指導者的存在となることに力のあつたのは藤田東湖を筆頭とせざるを得ない」と父子の功績を称えています。

■藤田家の旧宅跡

飯田の藤田家旧宅跡には、現在は井戸の跡だけが残っていますが、最近紹介された明治初期の地図反別一筆限帳には、藤田家当主金衛門所有の宅地などが東湖の長男健の所有となつた時期があることが示されています。



▲藤田家旧宅井戸跡

また、藤田家の菩提寺であつた近くの一乗院には、江戸時代中期の安永年間に饑饉のために倒れた人々を供養する供養塔が建てられており、その協力者の中にも藤田金衛門の名が刻されています。

▼飯田村地図反別一筆限帳(鈴木洋氏蔵)



当時の飯田村は貧村であつたといわれていますが、そのような中にあつても村人の優しい心根をうかがうことができま

■幕末の志士と藤田東湖



藤田東湖

藤田東湖が明治維新に大きな働きをしたことは、大政奉還を決意した將軍徳川慶喜が、明治22年(1889)4月、謹慎の地であつた静岡から上京し、各地を巡つた後に多くの水戸藩士たちが眠っている水戸の常磐共有墓地を参詣した折に、参拝は「東湖のほかはよろし」とされ、東湖の墓のみを参拝されたことにも表れています。

この藤田東湖は、水戸藩の人々ばかりでなく幕末の多くの志士たちからも信頼され、仰望的でもありません。江戸へ登つたら水戸藩



▲藤田幽谷・東湖の墓

邸へ行き藤田東湖先生の教えを仰げ」は、他藩において当時の合言葉であったようです。

薩摩藩の西郷隆盛もその1人で、初めて水戸藩邸を訪ねて東湖に会ったときの思いを「まるで真夏の暑さの中で清水を浴びたような清々しい心地になり、帰路を忘れそうになったほどであった。東湖先生も自分のことを丈夫丈夫といつて励ましてくれた。水戸藩に何事か起こったならば、その解決に向かつて命がけで尽くそうと思えう。」と郷里薩摩の友人に書き送っているほどです。

このほかに、安政の大獄で倒れた吉田松陰は、水戸へやってきて東湖の友人会沢正志斎の教えを受けました。太田の瑞龍山や西山御殿（西山莊）を訪ねた折には、この那珂市内を通って額田向山にあった浄鑑院常福寺を参拝しています。松陰は、藤田東湖の教えを受けたとも思っています。そのとき東湖は謹慎処分を受けていて人と会うことは許されていませんでした。

江戸の水戸藩邸で東湖からその力を見出されたのは、福井藩の橋本左内（景岳）です。王政復古を唱え、開国論・日露同盟論を主張するなど蘭学を学んだ優れた若者で、東湖の推薦により福井藩校の教授に抜てきされましたが、橋本左内も安政の大獄で倒れました。安政6年（1859）10月、藤田東湖が安政の大震災で圧死した4年後のことです。



西郷隆盛

徳川慶喜と寺門治平



徳川慶喜

水戸弘道館で学び、藤田東湖の働きを強く心に留めていた徳川慶喜については、天狗諸生の騒乱の結果、敦賀（福井県）で処刑された武田耕雲斎一行を救えなかったことが非難の1つとなっています。慶喜も後悔しています。降伏した一行の中にいた耕雲斎の5男猛の救出を指示し、成功させています。ただ、禁裏御守衛総督の任にあった慶喜と幕府の追討総督若年寄田沼意尊の立場を比較すると、幕府の立場には敵わず処刑も幕府が下した史上最悪の断罪であり、幕府衰亡の兆しとなった事件でした。

明治元年（1868）1月3日に起こった戊辰戦争において、密かに大坂を脱出したことも非難されます。軍事力では新政府軍に勝っていた幕府軍、それを率いていた將軍がなした、いわば敵前逃亡の振る舞いは許されるものではない

でしょうが、新政府軍には英国が支援し、慶喜には仏国が支援を申し出てきました。日本全国を新政府方と幕府方に分かれての戦乱のつぼに陥れることなく、また、英仏両国同士の代理戦争となることを避けることができたのは、ひたすら恭順の意を貫いた慶喜の至誠であり、姿勢であったといえるでしょう。

その慶喜が明治26年（1893）1月、90歳で亡くなった母親登美宮吉子（文明夫人）の葬送に瑞龍墓所へやってきた帰りのことです。『徳川慶喜公伝』には次のようにあります。

しけるが、やがて思ふ所やありけん、床に懸け置きたる烈公（斉昭）親筆の書軸を巻き納めて、外の軸に懸けかへければ、公は始めて御安心のさまにて、くつろがせ給ひきといふ。
（『徳川慶喜公伝』4「寺門勤談話」）

ここには、父烈公斉昭の前ではひびきを崩すことはできないと正座する慶喜（斉昭書）の父親への尊敬の念と孝養の心が見られます。何とゆかしい話ではないかと思えます。当日掛けられた書軸が何かは定かではありませんが、寺門家には、斉昭関係の史料が何点か保存されています。写真の「見義不為无勇也」なり。景山は斉昭の号）もその1つです。

【次ページに続く】

瑞龍山へ葬送の時は柩に従ひ給ひて、瘞埋（埋葬）の事何くれと沙汰せさせ給ひての帰るさ、額田の宿にて寺内治兵衛（寺門治平）といふ者の宅へ御一泊あり、座敷へ御通りの後、連日の疲労もあらせらるゝに、端然として正座し給ひ、聊もくつろがせ給ふさまなかりければ、治兵衛は深く恐懼



▲斉昭書軸

この寺門
治平宅に
は、その晩
に宿泊され
た慶喜の枕
辺に据えら
れた枕屏風
が、今でも
大切に保存
されています。
これま
た、家の由
緒・歴史を大切に
する家風が
守られ残され
ていることを嬉
しく思います。



▲枕屏風(寺門家蔵)

また、隅田川の畔に在った
水戸藩小梅邸(東京都墨田区)
の屋敷内には、藤田東湖が謹
慎という逆境の中でもくじけ
ずに生きる自らの気概を詠ん
だ「正気の歌」の歌碑が建つて
います。この小梅邸へ、明治
8年(1875)4月8日に
明治天皇が行幸されました。
その際、天皇は次のような
御製を詠まれました。

花ぐはしきくらもあれど
このやどの代々の心を
われはとひけり

この御製には「今や季節
は桜の真つ盛りである。国
民はこぞつて楽しくそれを
愛てはいるが、自分はこの
小梅の水戸邸にやつてきた
た。維新実現の根本となつ
た「尊王」、これは水戸の藩
主が大切にし、忘れずに
代々伝えてきた「心」であ
り、これがあつての維新実
現であつたと確信してい
る。それゆえに、ここに伝
わる水戸の精神や人々の働
きに思いをさせてまいった
のである」との思いが込め
られています。



▶小梅邸跡

この明治時代、国会が開
設されて言論によって社会
の進展を図る議会制度が誕
生しました。それを担う代
議士となって活躍した1人
に、東木倉村(那珂市)から
出た根本正代議士がいま
す。



■根本正代議士

西洋文明に感嘆し、単身
米国に留学して政治学を学
び、多くの若者に教育の機
会を与えようと義務教育無
償の法律制定に尽力しまし
た。さらに、健全な青少年
を育成することが国家の責
任であると、未成年者禁酒
禁煙法成立にも大きな働き
をなしました。天狗諸生の
騒乱を目の当たりにしてき
た根本正が、これからは言
論社会を実現しなければな
らないとの決意の表れでし
た。

その根本正は、明治時
代最大の外交難問であつ
た日露戦争に当たつて
は、明治37年(1904)
4月の帝国議会で「宣戦
が布告され、日露両国が
海に陸にと砲火を交ゆ
る、是れ誠に建國未曾有
の大事にして国家安危
の決するところである。
苟も代議士として、慎
重なる姿勢でその責務を
尽くし、一は天皇陛下の
大御心を安んじたまつ
り、一は国民の意思を代
表して挙国一致の実を世
界に明らかにする職責を
果たさねばならない。要
するに、国民が心を一
つにして立ち向かうこと
である。今の政府に色々問
題はあり、非難攻撃する
要素もあるが、自分が政
府に對する今までの行掛
りを捨てて全会一致、政
府案に賛成する理由であ
る。諸君、幸いに之を諒
とせられよ。」(要約)と訴
えて国民の1人としての
決意を宣言したのでし
た。

■中庭午吉の
「日露戦争従軍日記」

この日露戦争に従軍した1
人に、横堀出身の中庭午吉が
います。午吉の日記は明治37
年(1904)5月5日から
11月27日までが残つていま
す。その一部、6月の項には
次のように記されています。

1日 雨天 出発7時
半、実に道路悪しく山を
越えるに困難なり。腰よ
り下皆土だらけ、着4時
頃、夕方 雨止む。着地
安東県、清人の家に宿舎
す。本日よりパン一食つ
つなり。
4日 晴天 午前引馬、
午後車輪手入れ。
5日 晴天 午後馬屋建
てる木切り、馬屋番、午
後8時より雨降り10時頃
止み。
7日 晴天 午前引馬、
午後より馬屋作り、午後
3時頃大雷あり、大雨に
て雹まじり降り一時間ほ
どにて止む。
18日 晴天 午前休み武
器被服の手入、午後1時

より引馬演習、4時終り。
19日 曇り・晴天 午前
馬蹄鉄打替、午後休み、
旧5月6日にして、5日
の節句には屋根に支那皆
桃の枝を赤き布をつけさ
すなり、猶ヨモギもさす、
柏餅は麦粉の中に生の二
ラを入れる、猶ブタ(豚)も
入置くなり。午後5時頃
雨少々降り、一時間ばか
りにて止む。夜中2・3
時頃大雷あり。

厳しい戦陣の中にあつて、
よくも日記を付けていたと思
われますが、これによつて
も、戦地に徴用された軍馬も
必死に活躍している場面が想
像されます。ほとんどの軍馬
は帰還しなかつたともいわれ
ます。



▶中庭午吉の「日露戦争従軍日記」

■ 斃馬供養の「馬頭観世音」



▲常福寺の馬頭観世音碑

日露戦争で斃れた軍馬を供養のため、明治43年(1910)に瓜連村(那珂市)の常福寺境内に「日露戦役斃馬追弔塔の銘並びに序」と刻された「馬頭観世音碑」が、瓜連村・中里村はじめ那珂郡の有志によつて建てられました。

碑文では、常福寺住職安西覚順により「この日露戦争に、我が陸海軍はもろろん国民一丸となつて世界の一等強国に勝利したことは長く歴史に残るであろうが、一方で、この軍馬たちが勇敢に剣槍・弾丸を冒して命令を伝達、あるいは炎熱下、汚泥の中敵陣に臨み、よく運輸輜重(運搬)の役割を果たしてくれたお陰である。はては剣銃・傷害病毒に斃れて異郷に骨肉を曝し、鳥獣の餌となるに任せることは誠に悲痛そのものである。人畜といえども殉国に忠実なことは同じである。早く観音の功德を以て安らかに瞑目させて欲しい。」(要約)と書かれています。

ほかの市町村にも、軍馬・軍犬に関する供養碑が多く建てられており、ここにも、人々の勇躍と優しさ、命を愛しむ心を見ることができま

■ 「植桜の記録」

日露戦争は、非常な苦戦の中にありましたが、米国のルーズヴェルト大統領の斡旋により、結果、勝利に終わりました。実情を知らされない国民は大ロシアとの戦勝に酔い、だんだんと優越感から傲慢不遜となり、怠惰になつていきました。

このような国民の風潮を憂えられた明治天皇は、明治41年(1908)、戊申の年にいわゆる「戊申詔書」を發布され、本来の日本人に目覚めて誠実勤勞・質素儉約に日々努める国民に戻るよう善導されました。これに感激した青年たちにより、全国各地に戊申青年会・同志会なるものが結成され、地域社会の気風改良の運動が展開されました。その1つに那珂市の西木倉戊申同志会がありま



▲植桜の記碑と植田さん・愛護協会員

大正4年(1915)11月、大正天皇の即位式を記念として、西木倉の小場江用水の堤上や大宮街道(現国道118号線)の両側に桜の木数百本を植えました。

水戸の『大日本史』編さんに尽力した栗田勤は、碑文に「桜は日本特有の名木であり、開花するやその爛漫芳香、清艶秀絶にしていわゆる日本人の魂である。自今以後この樹が林立繁茂して郷里の美観となり、日本国家の永遠なる発展を祝し、また日本人の美風を養成することができれば、この事業の功績は実に大なりといえよう。」(要約)と記しています。

今や国情変化し、道路の拡幅により桜樹は伐採されて往時の景観を残してはいませんが、この碑は小場江用水路の畔(植田道也家所有地)にあり、植田さんや市文化財愛護協会員の協力によつて保護・保存されています。

最後に

平成の今日、元号「平成」とは裏腹に世界情勢は内外ともに混沌とし、自然界もまた大災害続きと、同じく不安な状況にあります。近代化を目指した明治時代人の気概と情熱、進取の気象や郷土への誇りと温かいまなざしなどに思いをはせながら、一人ひとりが協力し励まし合い、未来に希望のもてるまちづくりにまい進したいものです。